

あの時から学ばたと

比田勝中学校三年 原田 美音

「ねえねえ、その傷なあに？」

久しぶりに言われたのは小学校高学年の時。

私が下級生と遊んでいる時に言われました。

私は生まれつきで首にある茶色のあざにフン

プレックスをもっていました。

そのあざは母斑というものです。母斑とは

母斑細胞というものが皮膚の表面近くに集ま

って色素を作るためにできる褐色又は黒色に

見えるアザのことです。

私は、首だけではなく足の太ももや鼻の横

、髪が二箇所くるくるしている所にもあざが

できています。

私はよく転校していたため、いろんなそれ何

と聞かれており、平然と答えていました。正

直、聞かれて辛いな、嫌だなと思うことがあ

りました。が、友達や大人の方など聞いた本人

は悪気はないと思うし、私自身もその人達が

嫌いというわけではありません。でも年を重ね

ねるにつれ、あざが恥しくなったり、なんで私だけこんな変なあざがあるんだろうと思っ
ていました。毎回島外の大学病院まで行き
診てもらったことも苦痛でした。

小学校高学年になり、あざの手術をできる
チャンスの日が来ました。ですが一回目のチ
ャンスも二回目のチャンスも自分の風邪やコ
ロナの自粛期間で手術をすることはできませ
んでした。ですがもう一度手術できるチャン
スができました。三回目はやっとあざをとる

ことができました。手術前では検査をしたり
縫い方のマーキングなどがありました。当日
は運ばれているとき、全身麻酔をかけられて
いる時はとても怖かったです。いつの間にか
手術は終わってました。朝早くから夕方まで
かかりました。顔もはれて、ガーゼだらけで
首も思うように動かせたりできなくて、前
よりもとそれ大丈夫なの？と声をかけられ
る回数も増え、その時期は、外にも出たくあ
りませんでした。

何日か経ち、学校に行くことにしました。
その時の自分是不好では方ありませんでした。
でも私の同級生のみんなは久しぶりに来た私
に名前を呼んで来てくれたり、いつも通りに
接して私を笑わせてくれたり、とても元気がで
ました。
お医者さんや看護師さんはその後私に寄り
そ、てくれて手術ができて良かった。今で
も思っています。同級生のみんなが今まで通り
に過ごしてくれて、私のことをみんなが馬鹿
にせず、いてくれるから、みんなと楽し
く過ごせており今の自分がいると思います。
今でも傷は残っていて、たくさんの人に傷の
ことを聞かれます。でも今は良い経験だった
と思います。素直に傷のことについて話します。
周りには自分のことを分かってくれる人、悩
みを聞いてくれる人がいて、こうやって支え
てくれる人がいるから今を楽しんでいます。
います。周りにもし何かの傷があって困って
いる人がいたり、障害がある人がいても、相

手が傷つくような発言はしないようにしてく
ださい。私は今言われても大丈夫ですが、そ
の発言一つで言われた本人は傷ついてしま
うことがあります。もし気になった時は、言葉
を選ぶか、口に秘めておくようにしてくださ
い。世の中にはいろいろな人がおり、悩み事
もたくさんあると思います。みんなが互いの気
持ちを考え、支え合える世界になるといいな
と思います。こういうことで悩んでいる人達
の気持ち分かるからこそ、自分ができるこ
とを探し、行動していきたいです。